

生物多様性はままつ戦略の進捗状況について

環境政策課

1. 生物多様性はままつ戦略の概要

浜松市における生物多様性の保全及び持続可能な利用に向けた取組みを総合的・体系的に推進し、持続可能な都市の構築を目指す基本的かつ総合的な計画として、平成 25 年 3 月に「生物多様性はままつ戦略」を策定しました。平成 29 年度に地域内外の状況を踏まえた見直しを行い、平成 30 年度より「生物多様性はままつ戦略 2018」として、目指すべき将来像の実現に向けた 3 つの基本方針を掲げ、生物多様性保全に取り組んでいます。

2. 生物多様性はままつ戦略の達成度

生物多様性はままつ戦略 2018 では、令和 4 年を目標年度に基本方針に沿った 7 つの指標により進捗を管理しています。7 つの指標のうち 4 指標は目標の達成に向けて順調に推移しています。一方で、「市民参加型調査に参加した人数」や「『生物多様性』の理解度」の実績は目標値に届かず、達成のためには新たな働きかけが必要です。

基本方針 1 多様な生きもののすみかをしっかりと守っていきます

取組み	指標	目標値	令和元年度実績	備考	進捗状況 ^{※3}
①生きものの生息・生育場所の保全	ヤリタナゴの生息数 (基準値: 64 個体 【成魚 5 当歳魚 59】)	維持、 又は増加	61 個体 【成魚 45 当歳魚 16】		○
②持続可能な農林水産業の促進と良好な生態系の保全	多面的機能支払交付金 ^{※1} の交付面積 (基準値: 農地維持: 3,187ha 資源向上 共同 : 2,718ha 長寿命化: 4,247ha 計 10,152 ha)	10%増加	農地維持: 3,095ha 資源向上 共同 : 2,695ha 長寿命化: 3,743ha 計: 9,533 ha (6.0%減)		×
③都市における緑地・水域の保全と連結・拡充	緑地保全面積 ^{※2} (基準値: 1,373ha)	維持、 又は増加	緑地保全面積 1,374ha		○

※1: 農業・農村は、国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全などの多面的機能を有しており、この機能の維持・発揮を図るための地域の共同活動に対する支援に係る交付金を指す。

※2: 特別緑地保全地区、風致地区、生産緑地地区、保存樹・保存樹林、市民の森の面積を合計したもの。

※3: 進捗状況は、良好な項目を「○」、進捗が遅れている項目を「×」、未調査の項目を「-」とした。

「生きものの生息・生育場所の保全」では、北区の井伊谷小学校にて、地域の産業と自然の繋がりを学ぶ「田んぼでつながる人と自然」の ESD プログラムを実施し、静岡県指定希少野生動植物に指定されているヤリタナゴの保全に取り組みました。令和元年 9 月には、北区引佐町に整備した正楽寺ビオトープにて、井伊谷小学校児童によるヤリタナゴの放流会を開催しました。



ヤリタナゴ放流会の様子(令和元年 9 月)

基本方針2 地域の生物多様性を守るための仕組みをつくります

取組み	指標	目標値	令和元年度実績	備考	進捗状況※
④様々な主体との円滑な連携、活動支援	浜松市生きものパートナーシップの協定を締結した件数 (基準値:0件)	3件締結	1件締結		○
⑤生物多様性に関わる情報の収集・蓄積・活用	市民参加型調査に参加した人数 (基準値:0人/年)	300人/年	30人		×

「様々な主体との円滑な連携、支援活動」の取組みでは、天竜区の大栗安棚田倶楽部とドローンの映像撮影を手掛ける東区の株式会社アイエグゼックと市の3者で、令和2年1月に「浜松市生きものパートナーシップ協定」の第1号を締結しました。協定の内容は棚田を守るための担い手確保を目的としたPR動画を制作するものです。協定に基づく活動や制作されたPR動画については市のホームページで紹介する予定です。

「生物多様性に関わる情報の収集・蓄積・活用」では、身近な生きもの「ツバメ類、カエル類、赤とんぼ類」の写真をスマートフォン等で撮影し、メールで送信していただく市民参加型の調査を行いました。参加数は大きく目標に届きませんでした。多くの市民が身近な自然に触れて、自然に興味をもっていただくよう、スマートフォン等を活用した写真の送付だけでなく、多くの市民に参加していただけるようなより簡易な方法を検討します。

基本方針3 豊かな自然と恵みを将来につなぐための人を増やしていきます

取組み	指標	目標値	令和元年度実績	備考	進捗状況※
⑥地域の生態系を支える人づくり	環境学習指導者による生物多様性保全学習会の開催・参加回数 (基準値:1,803回)	10%増加	開催・参加回数 2,005回 (11.2%増加)		○
⑦生物多様性の大切さを理解し、行動する市民の育成	「生物多様性」の理解度 (基準値:30.4%) *言葉も意味も知っている	60%超	14.1%(43.2%※) 市民アンケート調査結果	*「言葉を知っている」を加えると43.2%	×

「地域の生態系を支える人づくり」の取組みでは、環境教育や環境活動の担い手となる人材を育成するため、毎年環境学習指導者養成講座を開講し、令和元年度までの講座修了生は69人、登録者全体では153人となりました。こうした環境学習指導者の増加と各指導者の自主的な学習会の開催や環境活動への参加により「環境学習指導者による生物多様性保全学習会の開催・参加回数」は増加しました。

「生物多様性の大切さを理解し、行動する市民の育成」の取組みでは、生物多様性の理解度を指標としていますが、「言葉も意味も知っている」人の割合は14.1%と目標に届かず、国の調査結果20.1%よりも低い状況です。市のホームページ、SNSの活用に加え、戦略の指標としている市民参加型調査や生きものパートナーシップ協定などの取組の中で生物多様性保全の重要性を啓発し、理解度の向上に努めます。